

特別支援学級 国語科学習指導案

令和7年 12 月 22 日(月)5校時(13:15～14:00)

荒川区立峡田小学校 ひまわり学級

第1学年～第6学年 38 名

研究主題	自分のよさや可能性に気付く子の育成 ～受容的、肯定的な対話と友達との関わりを通して～
------	---

1 単元名 「聞き方名人になろう ～わたしはだれでしょうクイズ～」

2 単元の目標

- ◎相手を見て話したり聞いたりすることができる。〔知識及び技能〕3・4年(1)イ
- ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕1・2年 A(1)エ
- すすんでクイズ作りやクイズを出し合う活動に取り組み、友達と対話することを楽しんでいる。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 指導観

(1)単元観

本単元は、『特別支援学校学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部)』の【第2 国語科】〔思考力、判断力、表現力等〕「A 聞くこと・話すこと」、および、『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編』の〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」(1)に関する指導事項を受けて、設定した。

ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。(第2段階)

ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。(第3段階)

カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。(第3段階)

『特別支援学校学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部)』より

エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容をとらえて感想をもつこと。(第1学年及び第2学年)

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。(第3学年及び第4学年)

『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編』より

本単元では、クイズを出し合う活動を通して、クイズに答えたいという気持ちから、話し手に注目し集中して聞く活動に取り組むことができると考える。学習のゴールを異学年集団(ひまわり縦割り班)でのクイズ大会とし、次へのコミュニケーションへの意欲が高まる活動を設定することで、友だちの話を聞くと楽しいという気持ちを味わわせ、また聞きたいという態度と聞く力を育てていけると考える。

なお、本単元では「A 話すこと・聞くこと(特別支援学級指導要領においては「A 聞くこと・話すこと」)の中でも、特に「聞くこと」に焦点をあてて設定している。「話すこと」と「聞くこと」は同時的に行われており、「聞くこと」ができているかどうかは聞いたことを受けて「話すこと」で評価される部分も多いため切っても切れないものではあるが、児童がめあてを明確にもつために、そして、振り返りの視点を絞ることで、学習効果を最大限に引き出すために、本単元では「聞くこと」に焦点を絞って設定した。

(2)児童観

国語の学習は学年別のグループで担任が指導しているが、「A 話すこと・聞くこと(「A 聞くこと・話すこと」)」、「B 読むこと」、「C 書くこと」のどの領域でも実態に差があり、実態に応じてめあてを設定したり、ワークシート等の支援方法を工夫したりしている。

2学期より、各学年で、「きのうのこと発表」(日直が前日の下校後の経験を、「遊びました、夜ご飯を食べました、お風呂に入りました、寝ました」のように発表する)を朝の会で取り入れ、発表後に、聞き手ももっと詳しく知りたいことについて、質問をしている(「〇〇さんに質問です。夜ご飯は何を食べましたか。」「(回答後)ありがとうございました。))。友達の放課後の様子という、聞きたくなるような題材を設定し、話型に沿って話したり質問したりすることで、少しずつ言葉のやり取りができるようになってきている。

異学年交流については、ひまわり学級では、年間を通じ、生活単元学習や学級活動で縦割り班での活動を取り入れ、高学年の児童がそれぞれの班をまとめる役割を担っている。活動では、高学年の児童は、自分たちが低学年だった時にしてもらったように、リーダーの立場に立ち、低学年を明るくサポートしたり親切に教えたりしている。低学年の児童は、優しく導いてくれる高学年に対し、尊敬や憧れの念を抱き、いつか自分もそのような姿の上級生になりたいと、身近で望ましい具体的なモデルになっている。

(3)教材観

本単元では、それぞれが作ったクイズをペアで出し合い、答え合うことを楽しむ中で、話を聞く意欲と態度、そして聞く力を育てていくことを狙っている。学習のゴールを異学年集団(ひまわり縦割り班)でのクイズ大会とし、クイズに答えるために友達の話を聞くという場を複数回設定することで、友だちの話を聞いて楽しい、聞いてくれて嬉しいという活動を積み重ね、「聞くこと」について前向きな態度を育てることができると考える。「話すこと」については、クイズ台本を教師が用意し、話型に沿って話すことができるようにし、本単元ではあくまで「聞くこと」に焦点あてて学習を進めていきたい。

活動を原則ペアで行うこととしたのは、話し手も聞き手も一人ずつにすることで、「自分に言われている」という実感をもって活動に取り組ませたいというねらいがある。聞き手はクイズに答えるために相手の話を聞かなければならず、また、話し手は自分のクイズに答えてもらうために相手からの質問を聞かなければならないという場を設定することで、受容的・肯定的に対話しながら活動に取り組むことができるのではないかと考えた。そして、クイズを出し合う活動を通して、クイズに正解したいという気持ちから、「聞き方名人になりたい」という意欲をもたせ、話し手に注目し集中して内容を聞く活動に取り組ませることができると考えた。さらに、クイズ大会を縦割り班で行うことで、下級生にとっては目の前にロールモデルがあることで自分のめあてを明確にもちやくすなり、上級生にとっては下級生を導くためのコミュニケーションも必要とされることでより話すこと・聞くことにつながる力の育成が期待できると考える。

クイズを出し合う活動(クイズ大会)では、毎時間、めあてをもたせてから活動に取り組ませる。また、

ペアでクイズを出し合う前に自分のめあてを確認する機会を毎回設ける。そして、毎時間の振り返りで、自分のめあてが達成できたかを振り返る。このことにより、クイズを楽しんで終わりではなく、当初の目的「聞き方名人になろう」に立ち返り、自分の聞く力の成長を実感しながら、聞くことへの意欲と聞く力を育んでいけると考えた。

各グループの担当教員は、各学年担当教員と連携を取り、児童の実態をふまえためあてを児童が設定できるようフォローする。また、児童の振り返りや次のクイズ大会につながるような活動中の児童の姿を見取り、その都度その瞬間に言葉にしたり、振り返りの際によかった姿として話題に出したりし、積極的に称賛していく。「聞くこと」についてのめあてを意識しながら取り組んでいる姿を教師が具体的に称賛し、「聞くこと」への前向きな気持ちと聞く態度、そして聞き取る力の育成につなげたい。

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2 段階	<ul style="list-style-type: none"> 物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。ア(ウ) やり取りを通して、言葉による表現に親しんでいる。イ(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしている。A ア 簡単な台詞などを表現している。A エ 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ作りやクイズを出し合う活動に楽しく取り組んでいる。
3 段階	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付いている。ア(ア) 伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れている。ウ(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 出来事など話の大体を聞き取っている。A ア 相手の話に関心をもち、自分の考えを相手に伝えている。A カ 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ作りやクイズを出し合う活動に、すすんで取り組んでいる。
1・2 年	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。A(1)エ 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ作りやクイズを出し合う活動に、学習の見通しをもって粘り強く取り組んでいる。
3・4 年	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見て聞いている。(1)イ 様子を表す語句の量を増し、話の中で使って語彙を豊かにしている。(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことを記録したり質問したりしながら聞く。A(1)エ 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ作りやクイズを出し合う活動において、友達と関わり合いながら粘り強く取り組み、友達や自分の良いところを見付けようとしている。

5 キャリア教育で育みたい力(ひまわり学級)

- ☒ 自分で考え、気付く力……………友達の出題するクイズをよく聞き、質問や答えを考えることができる。
(課題対応能力)
- ◎ ☒ 友達等と関わり、学び合う力……ペアが変わる中、どんな相手とも一緒にクイズを楽しむことができる。
(人間関係形成・社会形成能力)

6 目標にせまるための手立て

① 相手意識や意欲をもたせる

縦割り班で活動を行うことで、高学年は低学年にも理解できるよう相手を意識してクイズをつくる。また、低学年は憧れの高学年がつくったクイズに正解したいという気持ちから、よく聞こうという意欲も生まれる。互いに相手を意識して活動することで、「集中した聞き方」「より伝わる話し方」ができると考える。

② クイズ作成時の支援

クイズを作る際には、学年や実態に応じて支援を工夫する。低学年や支援が必要な児童は、選択肢の中から答えになるものを選び、教師と一緒にクイズを作っていく。高学年や自分で学習を進めていける児童は、形式を示してできるだけ自分の力で作成し、ヒントの順番なども考えさせる。

③ 動画の活用

聞く力に課題意識をもたせるために教師が聞き方のよい手本と、よくないクイズの様子を見せる。単元の導入では、よい手本を見せ学習の流れをつかませる。よくないクイズの様子の動画は、練習やクイズ大会で見せ、視覚に訴えることでどこがよくないのか具体的に考え、自身のめあてにつなげることができる。

④ 個に応じためあての選択

めあては、選択肢の中から自分で決めることを大切にする。教師は児童それぞれが適切なめあてを選べるようサポートする。また、設定しためあてを活動中も意識できるよう黒板に視覚的に掲示したり、クイズを出題する前に「あなたのめあては何ですか。」と確認する場面を設定したりする。

⑤ ペア(トリオ)の調整

校外学習や生活単元学習など普段活動している、学級内の縦割り班をもとにペア(トリオ)を構成し、低学年は高学年を見て聞き方や質問の仕方を学び、高学年は低学年に対してサポートやアドバイスをし、互いの得意な部分を生かしつつ苦手な部分を補い合いながら活動を進めることができるようにする。

⑥ ヒントカードの活用

できるだけ児童同士でやり取りができるように、ヒントカードを活用する。ヒントカードは、文字だけのもの、文字にイラストを加えたものなど、児童の実態に応じて用意する。それを、自分で選んだり、教師が適切なものを薦めたりして活用していく。

⑦ 同じ活動を繰り返す

新規場面や臨機応変に、言葉の指示だけで活動することは苦手であるが、繰り返し行うことで、活動を理解し、見通しをもち、安心して取り組むことができる。クイズ大会を毎回同じ方法や手順で行う。

⑧ 教師の受容的な声掛け

活動中の児童の様子を教師がつぶさに見て取り、些細な変化や成長を即時、且つ具体的に言語化して伝え、フィードバックすることで、児童ができるようになったことを自覚することができるようにする。また、聞

き方のよいところを具体的に共有することで、個人のよさを全体に広められるようにする。

7 単元の概要

(1)単元の指導計画

次	時	学習活動	学習内容	見いだせる キャリア教 育で育みた いカ
1	1	・教師の「わたしはだれでしょうクイズ」を体験する。 ・どのように聞いたら正答できるか考える。 ・クイズを作って楽しむことを理解する。	・クイズ活動の目的が「人を楽しませること」であることに気付く。	自ふ
	2	・学校図書館でテーマ(動物、水の生き物、果物、野菜、乗り物等)に沿った図鑑や知識絵本で、関心のあるものを探す。 ・提示された項目(色・形・食べ物・音・得意なこと等)について調べる。	・自分の興味・関心を整理する。 ・クイズに必要な特徴や情報を集める。 ・ヒントとして使える要素を理解する。	自
	3 4	・集めた情報を整理し、問題を作成し、ワークシートに記入する。 ・教師や友達と問題を読む練習をする。	・ヒントの順序を教師と考える。 ・相手に伝わりやすい表現を確認する。	自友
2	5	・学年の中で、クイズを出し合う。 ・どのように聞くとよいか、考える。	・聞き方のポイントを整理する。	友
	6	・教師による動画①を見てクイズの仕方を知る。 ・クラス内でミニクイズ大会を行う。	・クイズの仕方が分かるようにする。	友見
	7 8	・2つのたてわり班ごとに場所を分けて、クイズ大会(1, 2回目)を行う。 ・教師の動画②③を見て、聞き方のめあてを立てる。 ・ペアでクイズを出し合い、相手を代えて3回行う。 ・振り返りを行い、次のめあてを考える。	・めあてを立て、よい聞き方を身に付けられるようにする。	自友 ふ
	9 (本時)	・2つのたてわり班ごとに場所を分けて、クイズ大会(3回目)を行う。 ・教師の動画④を見て、聞き方のめあてを立てる。 ・ペアでクイズを出し合い、相手を代えて3回行う。 ・振り返りを行い、次のめあてを考える。	・めあてを立て、よい聞き方を身に付けられるようにする。	自友 ふ

10	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのたてわり班ごとに場所を分けて、クイズ大会(4回目)を行う。 ・教師の動画⑤を見て、聞き方のめあてを立てる。 ・ペアでクイズを出し合い、相手を代えて3回行う。 ・振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを立て、よい聞き方を身に付けられるようにする。 ・できるようになったことに着目し、より一層聞くことへの意欲がもてるようにする。 	<div>自友</div> <div>ふ</div>
----	---	--	----------------------------

【クイズ大会の場所・組み合わせ・担当教員】 *別紙(個別のめあて)も参照

	1くみ	3くみ	4くみ
第1回(7時)	5班(本間)／6班(嶋田)	1班(国分)／2班(海老名)	4班(松下)／3班(青木)
第2回(8時)	3班／6班	1班／5班	4班／2班
第3回(9時)★本時	2班／6班	1班／3班	4班／5班
第4回(10時)	4班／6班	1班／5班	2班／3班

8 本時の学習

(1) ねらい

・「わたしはだれでしょうクイズ」とおし、集中して聞き、質問しながらクイズに答えることができる。

*個の実態とめあては別紙参照

(2) 展 開(9/10)

縦割り班の活動場所で、2班ごとに行う。


	児童の活動	◇指導上の留意点
導入 10分	1 今までの学習を振り返る。 2 動画を見て、本時のめあてを決める。	◇めあてを具体物に意識させるために動画を見せる。 ◇自分でめあてを選び、黒板(ホワイトボード)に貼ることで意識して活動できるようにする。自分の言葉でめあてを立ててもよい。 ◇適切に選べるよう指導する。
	<div>聞き方名人になるために、よく聞いてクイズに答えよう。</div>	

<質問ヒントカード>

・もうひとつヒントをください。

ヒント

・たべものは、なんですか。






・おおきさは、どれくらいですか。

・かたちは、どんなかたちですか。

・いろは、なにいろですか。

※しつもんしたいことが出てこないときは、ここからえらんでください！

かたち

いろ

おおきさ

もうひとつ
ヒントを
ください





























しつもんヒントカード

<振り返りカード>

↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑

ふりかえりカード

↑

/		目付	/ ←		目付	/ ←		目付
	     	めあて		     	めあて		     	めあて
 	 	ふりかえり	 	 	ふりかえり	 	ふりかえり	